

1

近畿地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

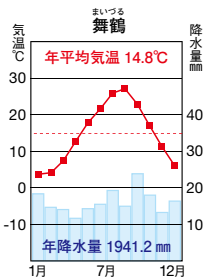
近畿地方は、地形の特徴から3つの地域に分かれます。北部は日本海に面し、なだらかな山地が広がります。中央部は近畿最大の平地が広がり、日本最大の湖、琵琶湖があります。また、南北に延びる山地もあり、山地の間には京都盆地や奈良盆地などの盆地が分布します。太平洋に面する南部には、険しい紀伊山地が広がります。気候も北部、中央部、南部で大きく異なり、それぞれに特色ある農業が営まれています。

北部

冬は北西からの季節風の影響で、雨や雪が多く降ります。日本海に面した地域ではズワイガニなどの漁業が盛んです。しかし、乱獲などで漁獲量が減少しています。

Q1 ズワイガニの回復のためにやっていることは？

- ① 小さなカニを海に戻す
- ② 小さなカニを持ち帰り育てる
- ③ 特に何もしない

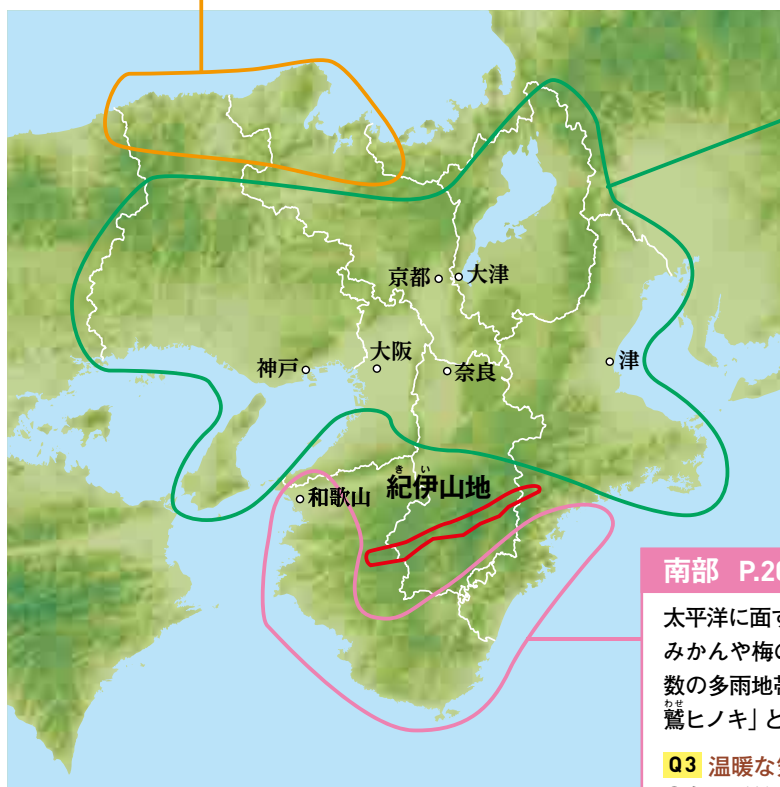
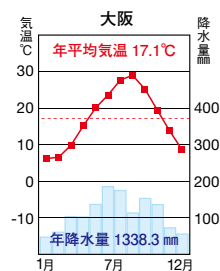


中央部 P.18

平野や盆地を中心に夏の暑さが厳しく、特に内陸の京都盆地は、夏は暑く冬は冷え込み、1年の気温差が大きいのが特徴です。南北を山に挟まれているため、降水量が少なく、琵琶湖などから水を引く疏水といわれる設備や、農業用水の不足に供えてため池が多くつくられました。

Q2 兵庫県の淡路島でつくられたため池は何か所？

- ① 1万
- ② 2万4千
- ③ 15万

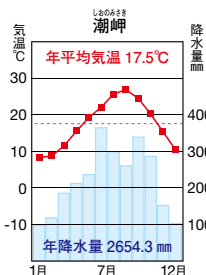


南部 P.20

太平洋に面するこの地域は冬でも温暖で、和歌山県ではみかんや梅の栽培が盛んです。紀伊山地は日本でも有数の多雨地帯で、奈良県の「吉野スギ」や三重県の「尾鷲ヒノキ」といった樹木を育てる林業が盛んです。

Q3 温暖な気候に影響を与えているものは？

- ① 冬の季節風
- ② 険しい山地
- ③ 太平洋の黒潮



3つの地域で、
こんなに
特色があるんだね

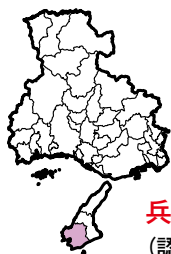
2 中央部の農業例

兵庫県南あわじ地域

「南あわじにおける水稻・たまねぎ・畜産の生産循環システム」

日本農業遺産

農地が少なく、水に恵まれない「島という環境」で発達してきた水を効率的に利用する仕組みを基盤に、耕種農家と畜産農家が連携して行う伝統的な資源循環型の農業が100年以上も続いています。



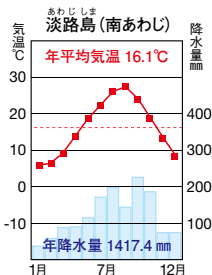
兵庫県南あわじ地域
(認定地／南あわじ市)



南あわじの夏の代表的な風景 稲とたまねぎ小屋

◆南あわじ地域の地形と気候

兵庫県淡路島の最南端の南あわじ市は、年間を通じて日照時間が長く、温暖です。雨が少ない上、土地の保水力が乏しい島特有の地形で、降った雨が短時間で海に流れ出て、水不足に陥りやすいという特徴があります。そのため、古くからかんがい設備の整備が進められてきました。



豆知識

かんがいとは？

田畑に農業用水を引き入れて土をうるおすことをいいます。かんがい設備には、用水路や排水路、ため池などがあります。



◆南あわじ地域の農業システム



昭和時代につくられた円筒分水(用水路に設けられ、水を集めて平等に農家に配水する仕組み)

江戸時代以降、新田開発とともに、ため池、河川、用水路といった地上の水と、湧水、井戸といった地下の水を組み合わせるかんがいシステムができました。京都、大阪、神戸の大消費地が近い、瀬戸内海運の発達という利点を生かし、それまでの稲作に加え明治21年(1888年)にたまねぎ栽培が始まりました。限られた農地を有効活用するため、たまねぎの品種改良と栽培技術の開発を繰り返し、稲刈り後の水田でたまねぎを栽培することができるようになりました。ほぼ同時期に労働力としての牛の飼育から乳製品をつくる酪農に転換し、牛ふんの堆肥を農地に入れて土壌改良することが考案され、稲、たまねぎ、畜産が連携して循環する農業システムが確立されました。現在、たまねぎ以外に稲→レタスや、はくさい→たまねぎといった栽培をする「三毛作」も行われるようになりました。



たまねぎの収穫



田植え後の田んぼとたまねぎの貯蔵

◆伝統的な乾燥貯蔵技術「たまねぎ小屋」

南あわじ地域は、南側を山、北の海側を松林などに囲まれています。そのため、強い湿気を含んだ海からの北風は松林がさえぎり、南からは山地を越えて、乾燥した風が吹き込みます。この乾燥した風を利用してたまねぎをしっかりと乾燥・熟成させるために重要な場所が「たまねぎ小屋」です。収穫したたまねぎは、2～3か月間つるした状態で自然の風でじっくり乾燥させます。直射日光が当たらず風通しが良いたまねぎ小屋は、温度と湿度とのバランスが良く、たまねぎの腐敗を防ぎます。また、水分が適度に抜けてうまみが凝縮されます。



集落の様子



たまねぎ小屋



10個を1束にしてつるす

「たまねぎ小屋」はたまねぎを長持ちさせ、味を良くするための、気候を利用した人々の知恵です。

たまねぎの生産量 全国上位5道県



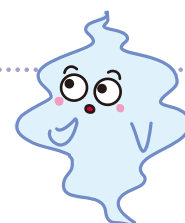
(農林水産省「野菜生産出荷統計」令和2年産より)

◆たまねぎの生産量

兵庫県のたまねぎ生産量は北海道、佐賀県に次いで全国第3位の98,500t(農林水産省「野菜生産出荷統計」令和2年産より)で、そのほとんどが淡路島のたまねぎです。中でも特に、南あわじ市は、兵庫県全域のたまねぎ生産の8割以上の生産量を誇ります。

考えよう!

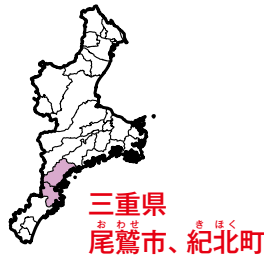
「たまねぎ小屋」はどんな自然環境を利用していたかな?



三重県尾鷲市、紀北町

「急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業」 日本農業遺産

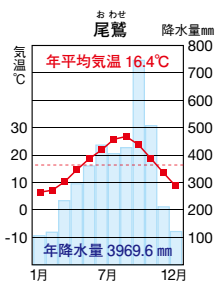
急傾斜地で多雨という厳しい条件を逆手に取って、強度が高く木目が美しい高品質なヒノキを持続的に生産する独自の伝統技術を発達させてきました。



ヒノキ植林地と熊野灘

◆ 尾鷲・紀北地域の地形と気候

三重県尾鷲・紀北地域は急峻な山岳地帯で、面積の90%が森林という平地が極めて少ない土地のため、農地が少ない代わりに古くから林業が発達し、1630年前後には人工造林が始まりました。地形が急峻な上、年平均3800mmを超える多雨により養分が流出するため、やせた土地でも育つヒノキが人工林の90%を占めるという全国でも例のないヒノキ造林地帯になっています。ヒノキ林は、リアス海岸に面した急斜面や世界遺産「熊野古道」沿線に広がり、地域固有の景観をつくっています。



尾鷲ヒノキと熊野古道（世界遺産）

◆ 尾鷲ヒノキ林業の特徴

尾鷲ヒノキ林業は、やせた土地に適したヒノキを密に植え、間伐を繰り返すのが特徴です。一般的なヒノキの植栽本数の倍以上の木を密集させて植えます（密植）。その後、余分な枝を切り落とし、成長に応じて木の一部を伐る間伐を繰り返して、残した木の成長を助けたりすることによって年輪幅が緻密で、強く美しい木材となります。

生産された木材は、そのほとんどが地域内の製材工場で加工・出荷されてきたことも大きな特徴です。また、間伐等の管理を行うことで、林床にまで光が届き、多様な生物が生育できる環境がつくられています。



間伐して林間が整ったヒノキ林

